

サプライチェーン全体での脱炭素化の重要性の高まり

オンラインセミナー「環境経営」の変化と企業に求められる対応

野村アセットマネジメント株式会社
責任投資調査部
山我 哲平

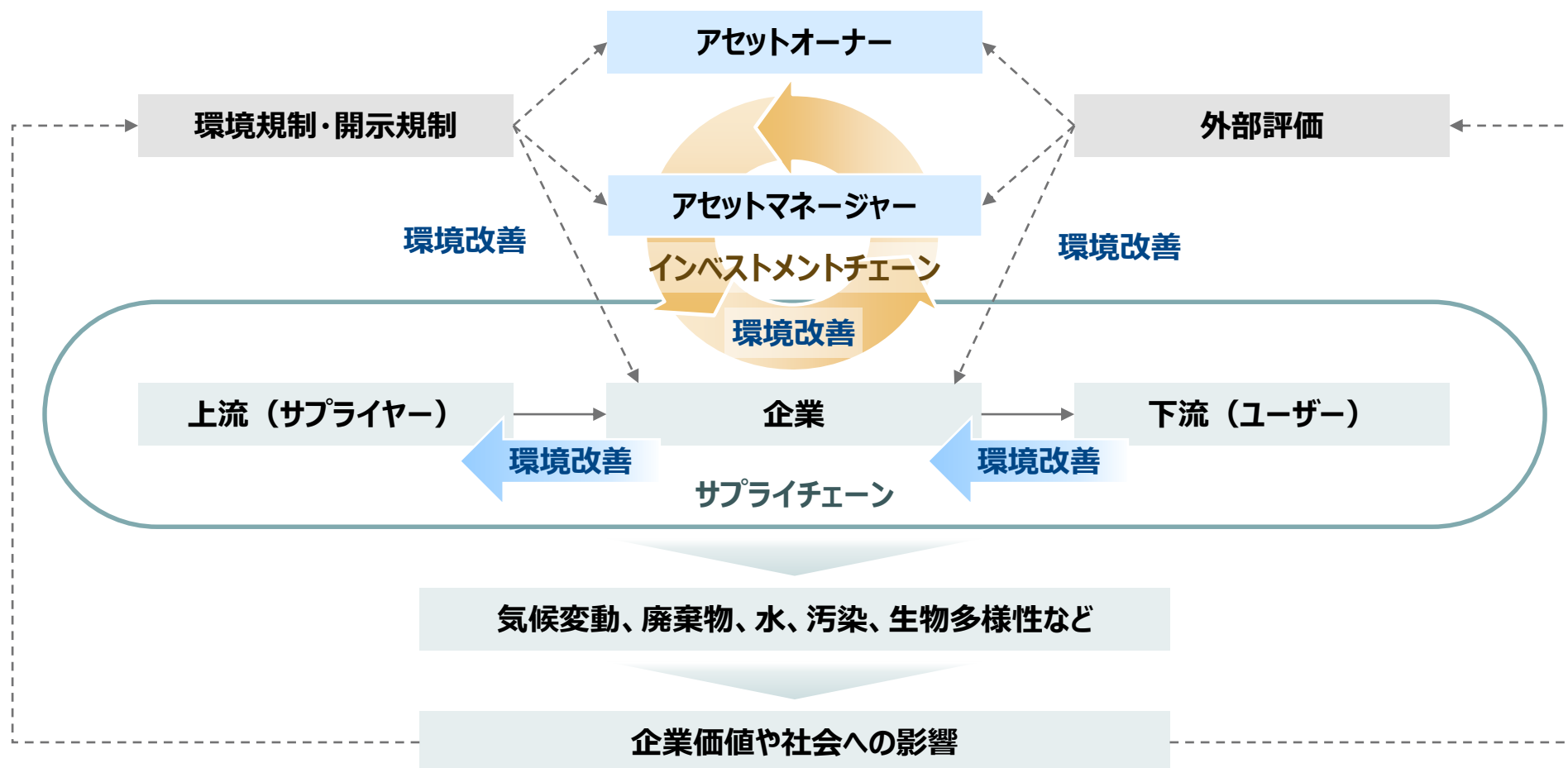


2021年3月5日

インベストメントチェーンおよびサプライチェーンにおける 環境改善・脱炭素化の動きの加速

- 環境経営の高度化により、インベストメントチェーンやサプライチェーンにおける環境改善・脱炭素化の動きが加速している
- 主な要因は、(1) 企業からサプライヤーへの働きかけ、(2) ユーザー選好の変化、(3) 環境規制・開示規制、(4) 投資家・外部評価など

インベストメントチェーンおよびサプライチェーンにおける環境改善・脱炭素化の動き

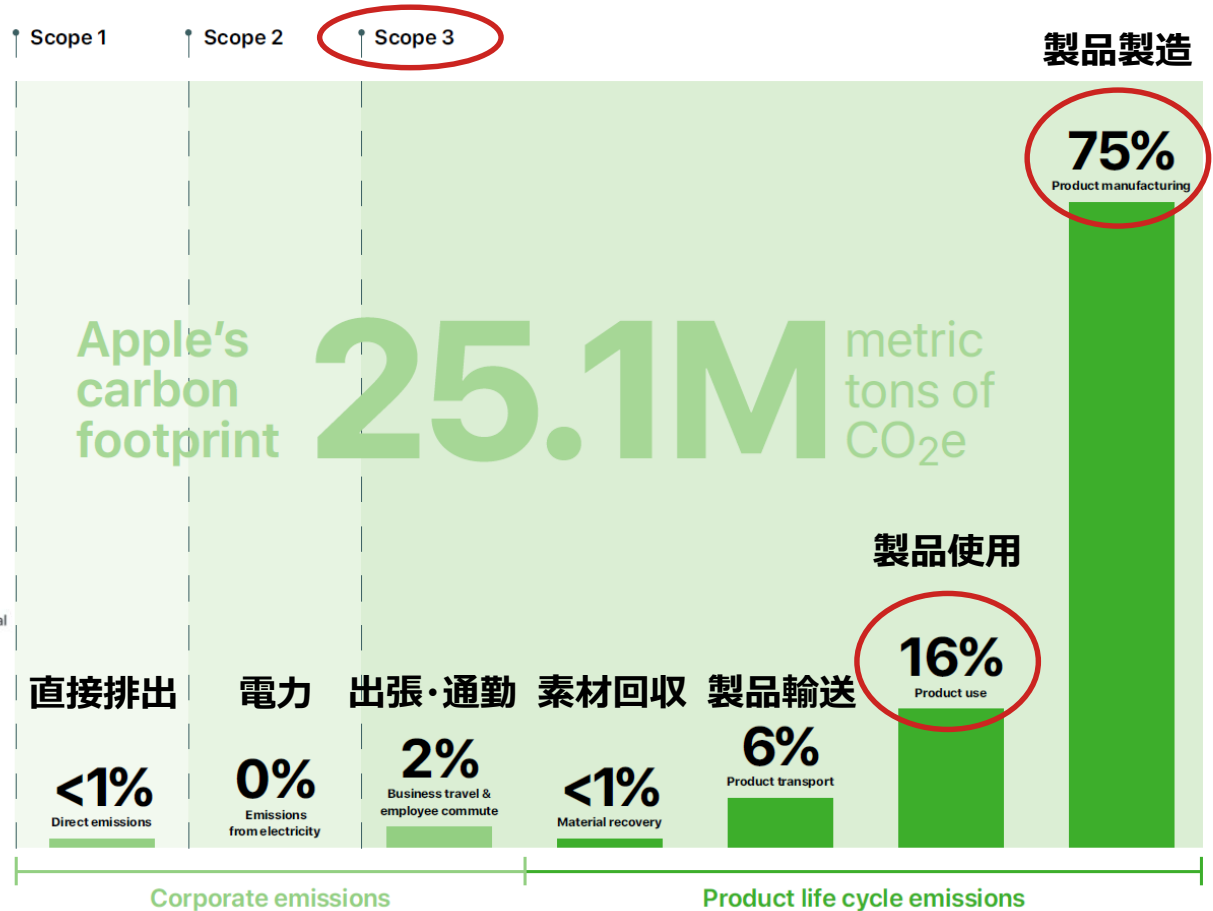
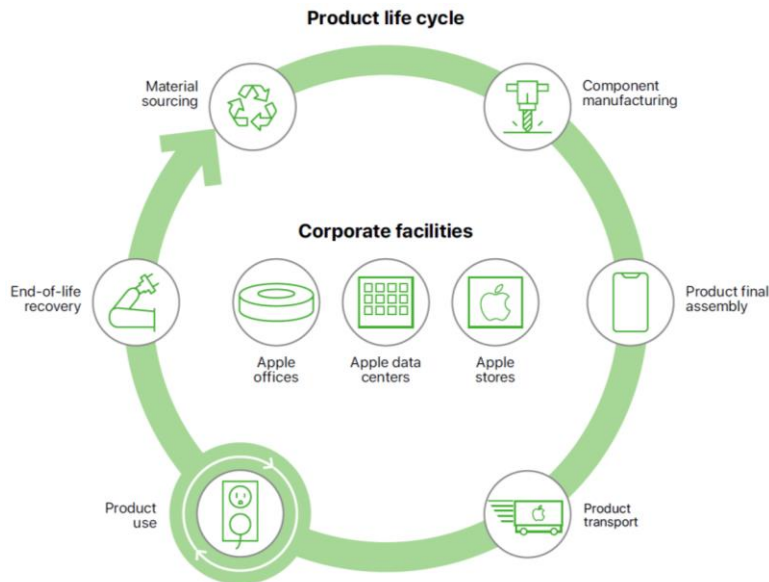


サプライヤーに求められる脱炭素化

- 2020年7月、アップルは2030年までにサプライチェーンで100%カーボンニュートラルを達成する計画を発表
- アップルのCO2排出量の75%が製品製造（上流）で発生しており、サプライヤーは再生可能エネルギーなどの活用が求められる

アップルのバリューチェーンとカーボンフットプリント

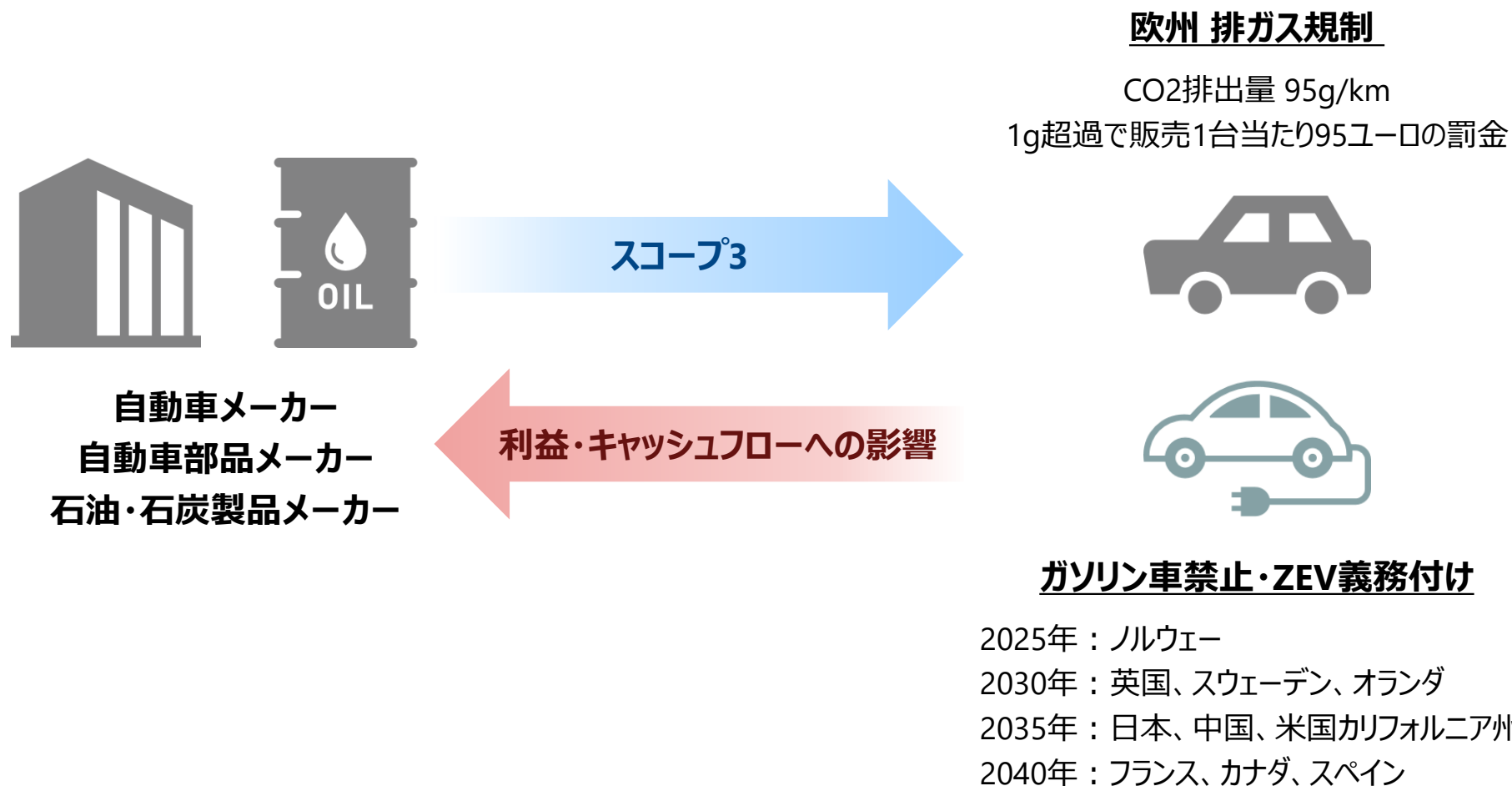
- アップルは2015年からサプライヤーと共同で再生可能エネルギー発電設備を増やす「サプライヤーグリーンエネルギープログラム」を開始
- 販売される全てのアップルのデバイス（下流）でも、2030年までにネットゼロを目指す



製品使用における環境規制の影響

- 自動車走行時のCO2排出量は自動車メーカー、自動車部品メーカー、石油・石炭製品メーカーなどがスコープ3として計測
- 排ガス規制やガソリン車禁止・ZEV義務付けはこれらの企業の利益・キャッシュフローに影響を与える

排ガス規制やガソリン車禁止・ZEV義務付けの影響



開示規制・ガイドラインおよび外部評価・イニシアティブ

- TCFDやEU気候関連情報開示ガイドラインではサプライチェーンの気候関連リスク・機会やスコープ3の開示を推奨
- CDPやCA100+、RE100などの外部評価・イニシアティブでも、サプライチェーン全体での脱炭素化を重視する動きが強まっている

開示規制・ガイドライン

TCFD

戦略	指標と目標
b) 気候関連のリスクと機会が当該組織のビジネス、戦略及び財務計画（ファイナンシャルプランニング）に及ぼす影響（ <u>サプライチェーン／バリューチェーン</u> を含む）を説明する。	b) スコープ1、スコープ2及び、当該組織に当てはまる場合は <u>スコープ3</u> の温室効果ガス排出量と関連リスクについて説明する。

EU気候関連情報開示ガイドライン

13の開示推奨項目 リスクと管理	10のKPI 温室効果ガスの排出
<u>バリューチェーン</u> における短期、中期、長期の重要な気候関連リスク	温室効果ガスのスコープ1、スコープ2、 <u>スコープ3</u>

外部評価・イニシアティブ



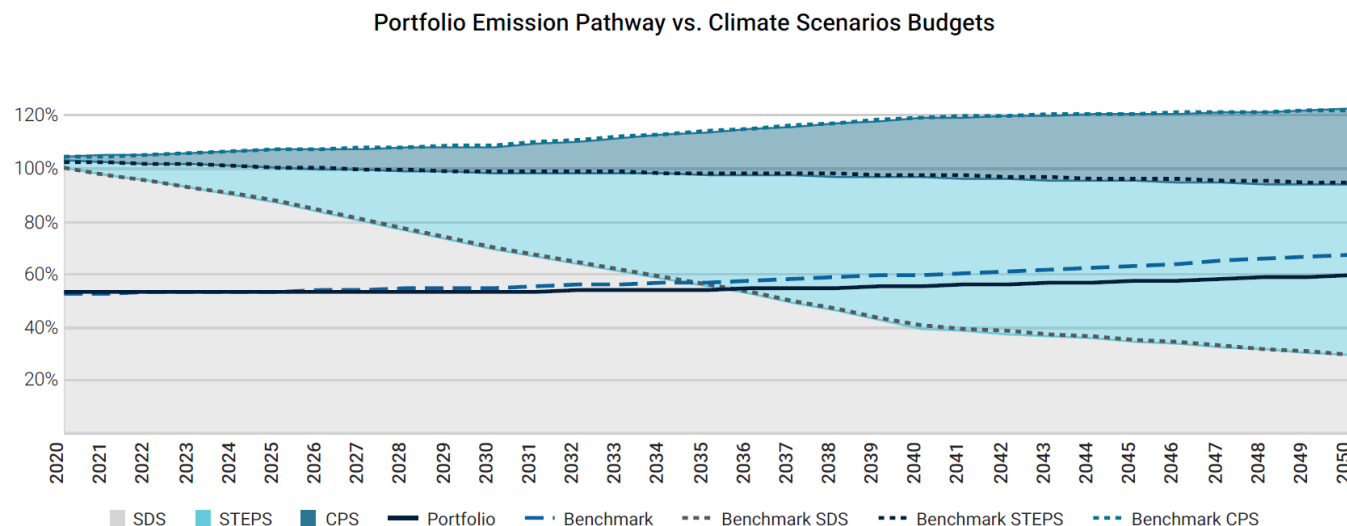
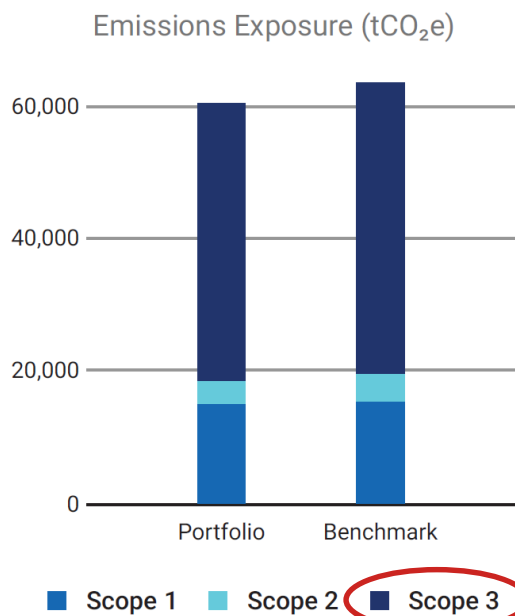
サプライチェーンプログラム



ポートフォリオにおける気候関連リスク・機会の分析

- 当社ではポートフォリオの気候関連リスク・機会の分析においてスコープ3を重視
- ポートフォリオの総炭素排出量の分析やシナリオ分析における化石燃料関連企業のGHG排出量でスコープ3を活用している

ポートフォリオの総炭素排出量の分析 ポートフォリオのシナリオ分析



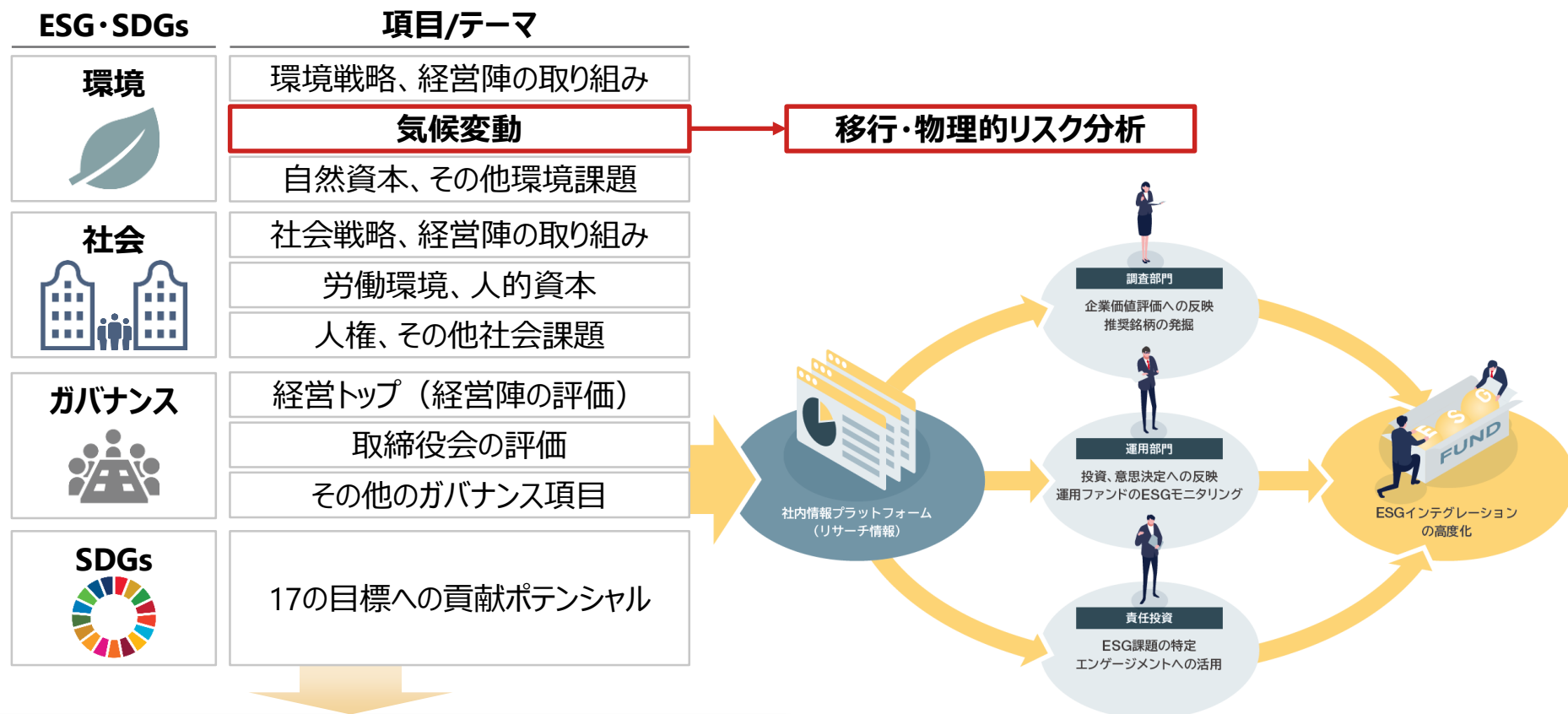
シナリオ分析における化石燃料関連企業のGHG排出量はスコープ3を使用

ポートフォリオの総炭素排出量の分析やシナリオ分析における化石燃料関連企業のGHG排出量でスコープ3を活用している

野村アセットマネジメント ESGスコアの概要

- ESGスコアは、非財務情報に起因するリスクやリターン、インパクトを評価するための有効な分析・評価手法である
- 当社は日本株式を対象として、企業が開示した非財務情報を基にアナリストとESGスペシャリストの知見を活かしたESG評価を実施

日本株式を対象にした野村アセットマネジメント独自のESGスコアのフレームワーク



日本株式を対象にした野村アセットマネジメント独自のESGスコア

ESGスコアの環境スコアにおける移行リスク分析

- 当社独自のESGスコアにおける環境スコアで、カーボンプライシングを活用して、投資先企業の移行リスクを評価している
- GHG排出量の経済的価値（費用）を投資先企業の自己資本やキャッシュフローと比較して、移行リスクのスコアに反映

ESGスコアの環境スコアにおける移行リスク分析

- 従来、気候関連の移行リスク分析はGHG排出量の多寡で評価することが一般的であった
- 当社はESGスコアの移行リスクを評価する項目で、カーボンプライシングを活用した財務インパクトの分析を実施
- GHG排出量については、スコープ1とスコープ2は投資先企業が開示しているデータ、スコープ3はESG評価会社の推計値を使用
- 炭素価格は、市場価格や投資先企業のインターナルカーボンプライシング（ICP）の水準を参考に、定期的に見直しを行っている

ESGスコアの環境スコアにおける 気候関連の移行リスク評価に反映



環境経営の分析・評価はリスクから機会へ

- SDGsは社会が考える重要なESG課題を示すとともに、世界の巨大な潜在市場や企業の成長機会を表している
- 投資家による環境経営の分析・評価は、「過去データ・リスク」に加え、「将来データ・機会」をより重視する傾向にシフト

環境経営の分析・評価はリスクから機会へ



- SDGsは環境経営における成長機会を示している
- KPI・目標値設定による進捗管理、レポートが重要



- イニシアティブ参画は環境経営のスタート地点
- 高度なリスク管理や成長機会に繋がっていく必要がある

NOMURA

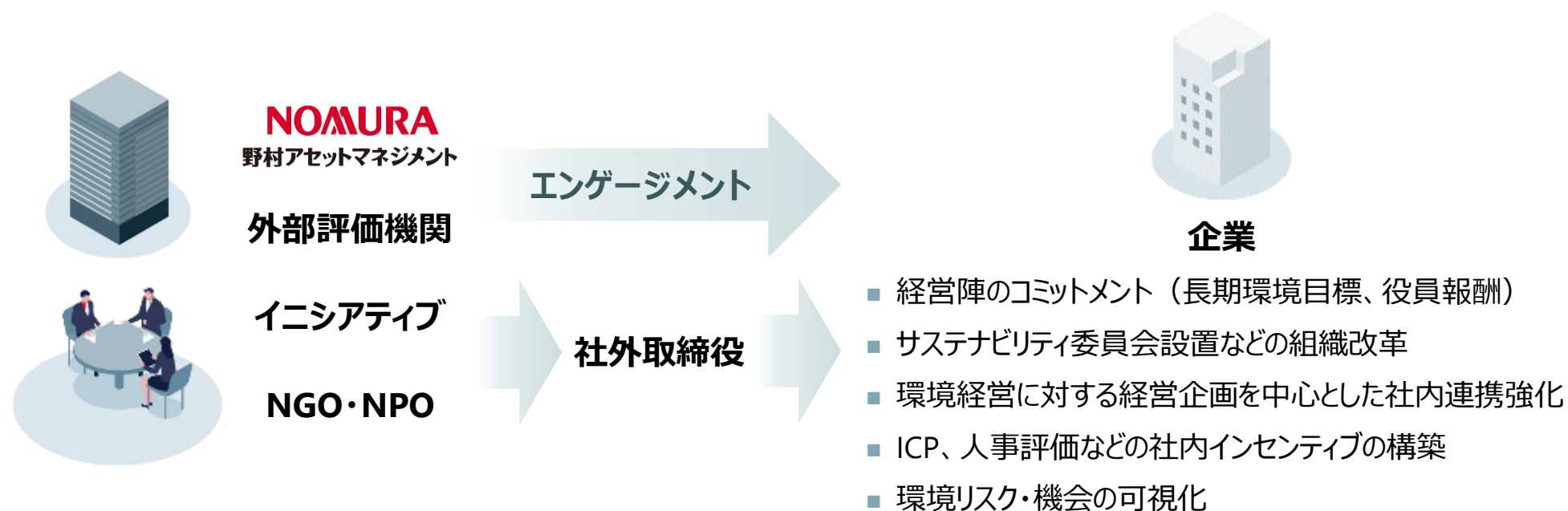
野村アセットマネジメント

- 気候関連リスク分析では、シナリオ分析、移行リスク（座礁資産）・物理的リスク（VaR）分析で将来データを活用
- 機会については、ESGスコアを中心に、ESGやSDGsの視点で、経営戦略・経営資源や将来の財務インパクトを分析

エンゲージメントを通じた環境経営促進の働きかけ

- 環境経営の促進には、投資家や外部評価機関、イニシアティブ、NGO・NPOなどの外部からの意見が参考になる
- 経営陣のコミットメントをはじめ、経営企画を中心とする社内連携や社内インセンティブなどにより環境経営を促進し、企業価値向上を実現

エンゲージメントを通じた環境経営促進の働きかけ



企業価値向上を目的とした環境経営の促進